

原木・製品生産のアンケート結果等 (九州地区)

令和2年10月
林野庁

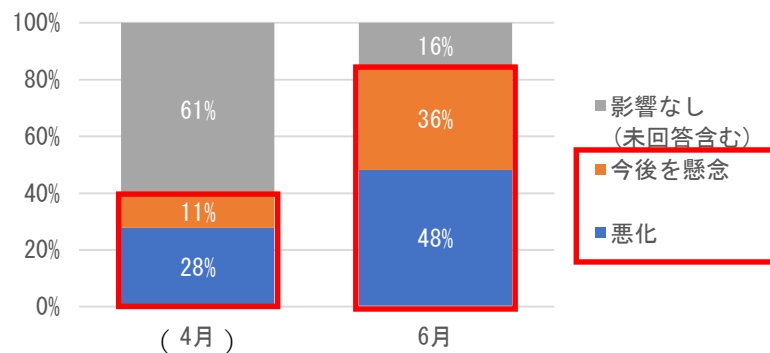
1 原木生産（全国）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数256）を実施したところ（4月の回答数は228）

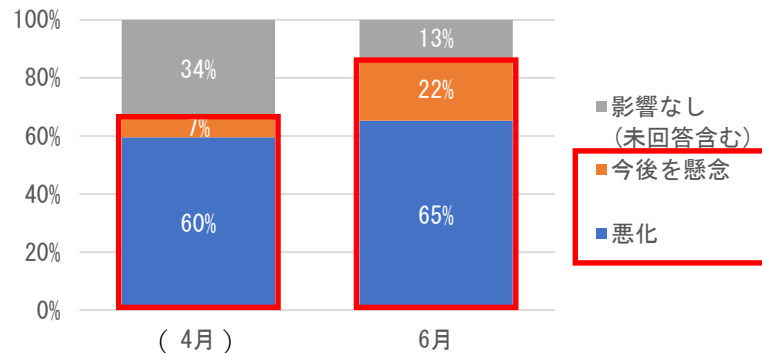
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約8割**であり、4月から4割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約9割**であり、4月から2割増加。
- ・ 8月の時点では需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くことを懸念。

○出荷量・販売価格状況

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等における原木の受入制限や原木価格の下落を受け、販売量は減少。
- ・ 一方、7月豪雨の影響により、九州地方では出材量が減少し原木価格が反発。
- ・ 燃料用材の需要は堅調。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くおそれ。
- ・ 豪雨の影響による原木価格の反発は一時的とみられる。

1 原木生産（全国）（つづき）

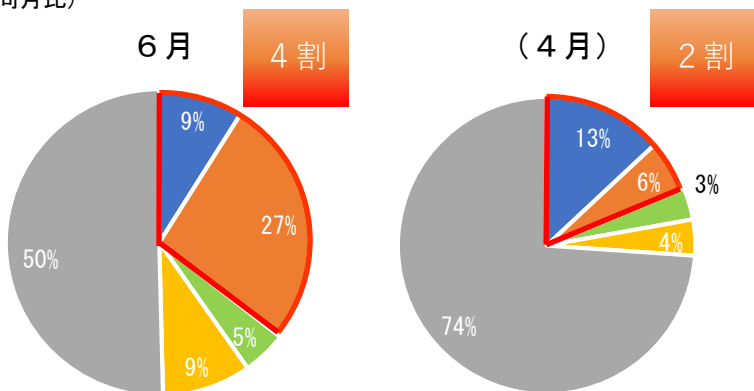
- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約4割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため素材生産の代替として、造林・保育へ移行（51%）、皆伐から間伐へ移行（38%）している。
- ・また7月以降、約3割の事業者が減産を実施予定と回答。

○生産状況、雇用

■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

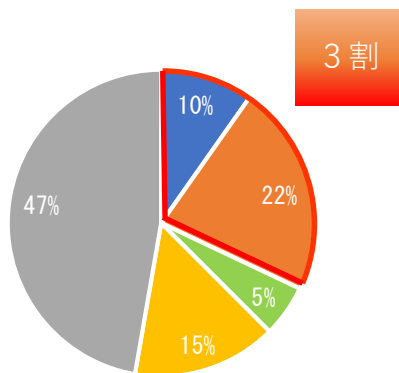
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

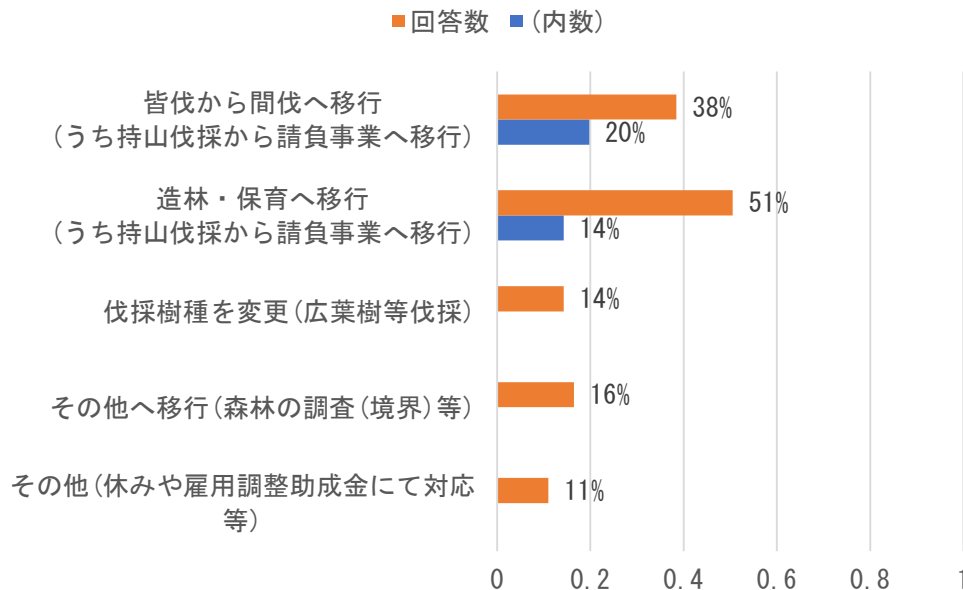
- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況

（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化や7月の長雨（豪雨）の影響に伴い、生産量は減少。
- ・生産に伴わない作業へ移行し雇用を確保している。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・経営状況の悪化が懸念される。

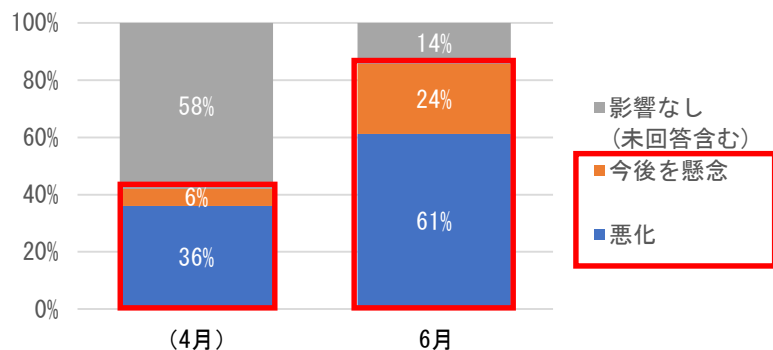
1 原木生産（九州地区）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数49）を実施したところ（4月の回答数は50）、

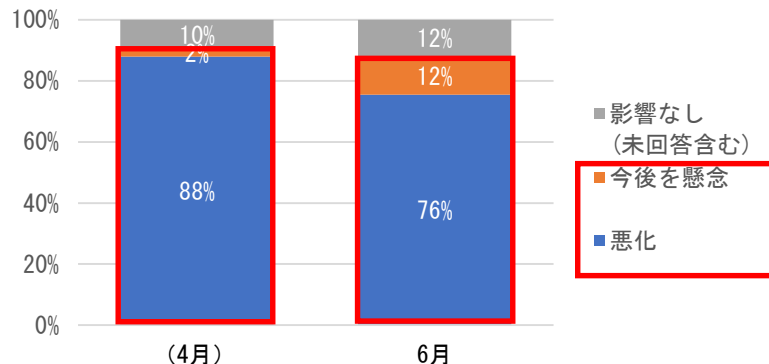
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約9割**であり、4月から5割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約9割**であり、4月から変化なし。
- ・ 8月の時点で7月豪雨の影響により出荷量が減少し、原木価格が反発したが、**需要は低迷**しており、一部製材工場では**入荷制限**を実施している。生産量が回復すれば再度価格の下落が懸念される。

○原木の出荷・販売状況、売上げの動向

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 7月豪雨の影響により出荷量が減少し、下落傾向だった原木価格は反発。
- ・ しかし、引き続き需要は低迷しており、一部の製材工場等では原木の受入制限を実施。
- ・ 中国向け輸出は4月以降は回復。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 原木価格の反発は一時的とみられ、生産量が回復すれば再度価格の下落が懸念される。

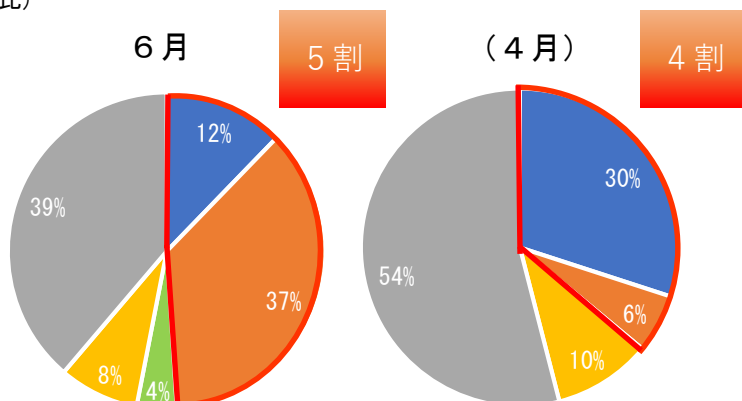
1 原木生産（九州地区）（つづき）

- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約5割であり（4月比1割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため、素材生産の代替として、造林・保育へ移行（58%）、皆伐から間伐へ移行（42%）している。
- ・また、7月以降、約2割の事業者が減産を実施予定と回答。
- ・8月の時点でも、雇用確保のため、素材生産を伴わない作業への移行等を実施している。

○生産状況、雇用

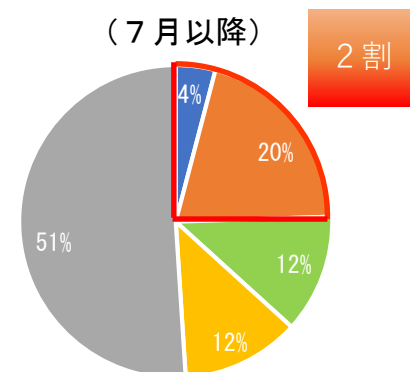
■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）

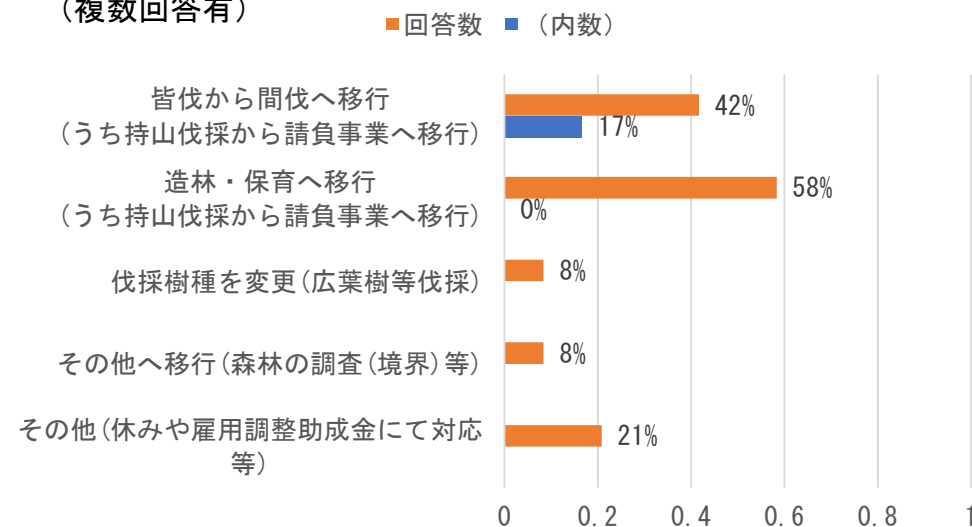


■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化に伴い生産調整や、雇用確保のため、生産を伴わない作業への移行を実施している。
- ・しかしこのような余力のない事業者もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。需要減少が続けば経営がさらに厳しくなる。
- ・豪雨による被災箇所の復旧が必要。

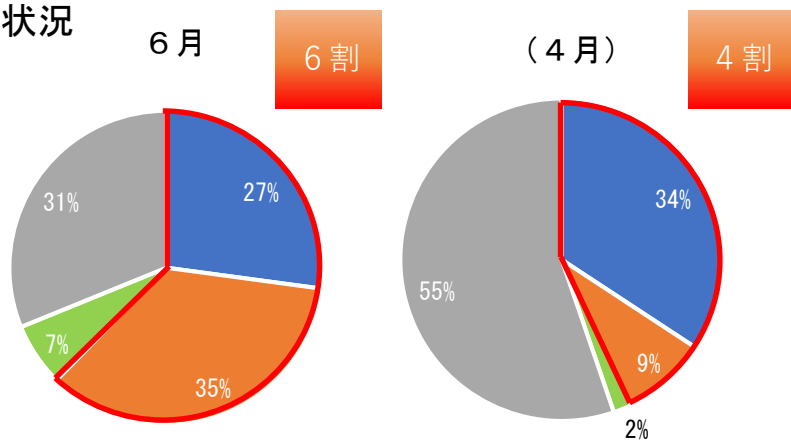
2 製材（全国）

全国の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数199）を実施（4月の回答数は219）。

- ・ 約6割の工場が製品の減産を実施しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。
- ・ 需要の先行き不透明な状況により、入荷制限は継続される見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

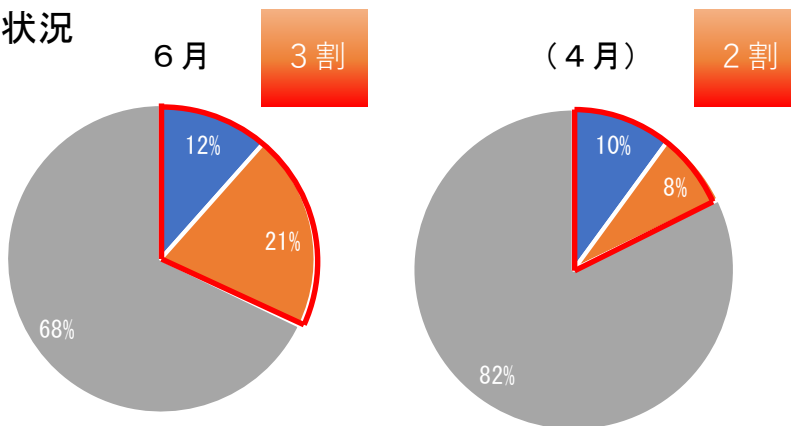
- ・ 製品生産・販売ともに全体的に減少傾向
- ・ 製品価格も下落傾向。
- ・ 特に梱包材・パレットやイベント等の仮設資材の需要が落ち込む。
- ・ ホームセンター向け製品の販売は増加。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 秋以降、多少需要が回復しても限定的で、現状の傾向が続くとみられる。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 減産に伴い一部で入荷制限を実施。
- ・ 供給側の生産調整や天候の影響による出材量の減少により、原木調達が困難となる地域もみられる。

【見通し】

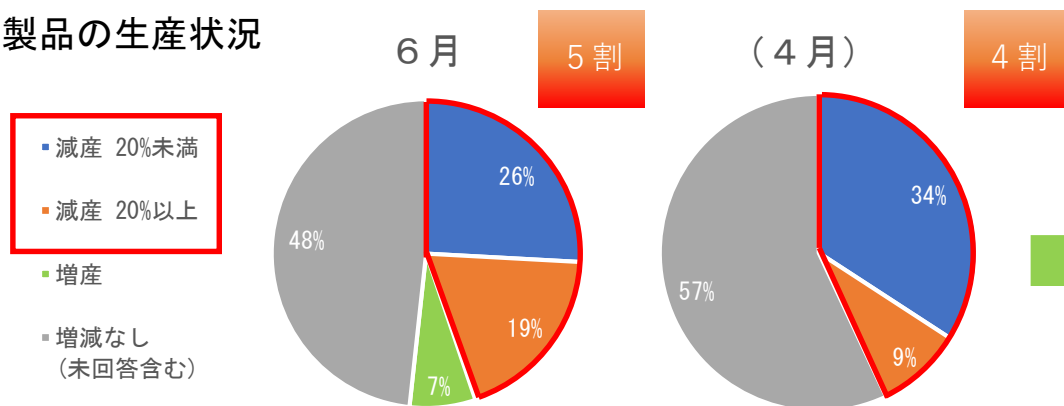
- ・ 先行きは不透明。
- ・ 販売状況によっては入荷制限を継続。

2 製材（九州地区）

九州地区の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数58）を実施（4月の回答数は79）。

- ・ 約5割の工場が減産していると回答しており（4月比約1割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続。
- ・ 8月の時点では、製品生産・販売が一部で3～4割減少。7月豪雨の影響により、原木価格高、製品価格安と厳しい状況。先行きは不透明だが、現状が続く見込み。

○製品の生産状況



■ 8月時点の情報

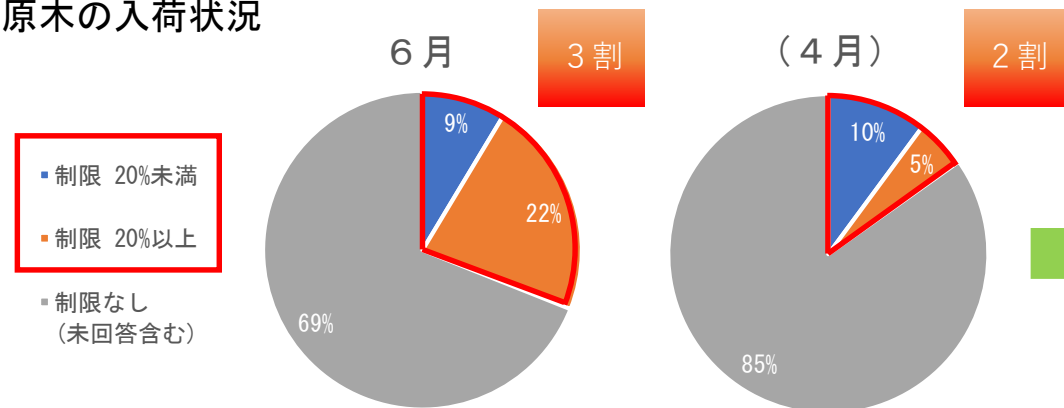
【現状】

- ・ 製品生産・販売は一部で3～4割減少しており、製品在庫が増加。
- ・ 製品価格も下落傾向。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明だが、現状が続く見込み。
- ・ 秋以降に公共物件等の需要が増加することに期待。

○原木の入荷状況



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 7月豪雨の影響により原木出材量が減少。
- ・ 原木価格が上昇し、製品価格が下落したため厳しい状況。

【見通し】

- ・ 原木価格が高いままだと、さらに経営が厳しくなる。

3 合板（全国及び九州地区）

合板工場を対象に6月の状況について調査（回答数31）を実施（4月の回答数は27）。

全国の状況として、

- ・合板の生産状況について、減産していると回答した事業者が約8割であり（4月比約2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約5割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。

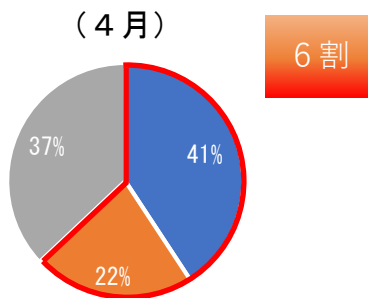
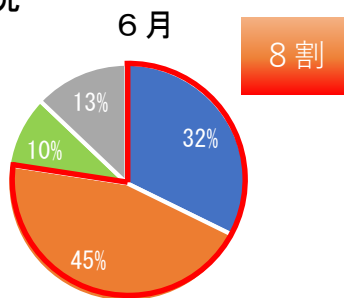
九州地区においては、製品生産は前年比1割減産、受注は前年比2割減。販売・受注は今後更に減少する見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

■ 増産

■ 増減なし
(未回答含む)



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比1～3割減産。
- ・販売も前年比2割程度減少しており、価格も下落傾向。

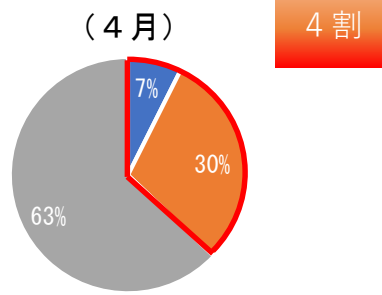
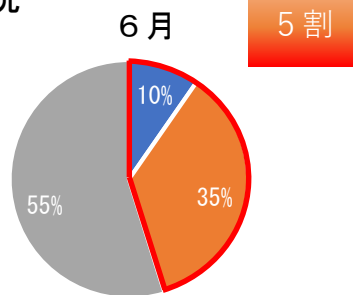
【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・秋まで需要減退が続く見通しであり、当面は減産を継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上

■ 制限なし
(未回答含む)



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・原木の受入制限を実施（前年比1～3割減）。
- ・一方、安定的に入荷を続けている工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・減産の継続に伴い、原木の受入制限を継続する見込み。

■ 8月時点の情報【九州地区】

【現状】

- ・製品生産は前年比1割減産。受注は前年比2割減。
- ・製品の当用買いが続くため、減産に伴い入荷減少。
- ・豪雨により7月は原木入荷が激減したが、生産への影響は少ない。

【見通し】

- ・全体的に低調で推移する見込み。販売・受注は今後更に減少傾向。先行きは不透明。

4 集成材（全国及び九州地区）

集成材工場を対象に6月の状況について調査（回答数64）を実施（4月の回答数は64）。

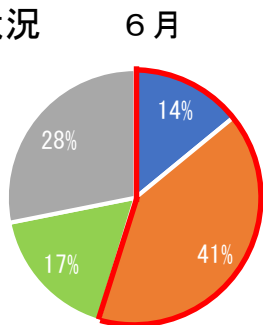
全国の状況としては、

- ・集成材の生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約6割あり**（4月比約3割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、**約2割**の事業者が**増産**していると回答。
- ・このため**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**。

九州地区においては、**販売状況は2割減**。原木価格の上昇と、製品価格の下落により、収益が大幅に悪化。

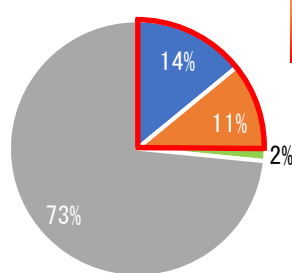
○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



6割

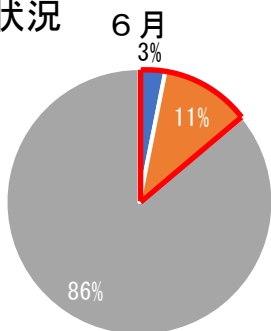
(4月)



3割

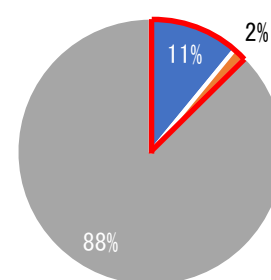
○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



1割

(4月)



1割

■ 8月時点の情報【九州地区】

【現状】

- ・販売状況は2割減。集中豪雨等の影響から、原木入荷量が例年になく減少。

【見通し】

- ・直近3ヶ月の見込みで回復傾向にはないと判断。特に国産材の原木価格の上昇と、下落した製品価格の差が激しく収益が大幅に悪化。

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比2～3割減産。
- ・安価な輸入製品との競合により、製品価格が下落傾向。
- ・一方、非住宅物件向け（公共・民間）の構造用集成材の需要が増加しており、高い稼働率を維持している工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。受注増は期待できず、当用買いが続く見込み。
- ・一方、非住宅物件向けの需要増により、前年比3割増の受注を見込む工場もある。

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・受注低迷のため入荷制限を実施。

【見通し】

- ・先行きは不透明。当用買いが続く見込み。

5 チップ（全国及び九州地区）

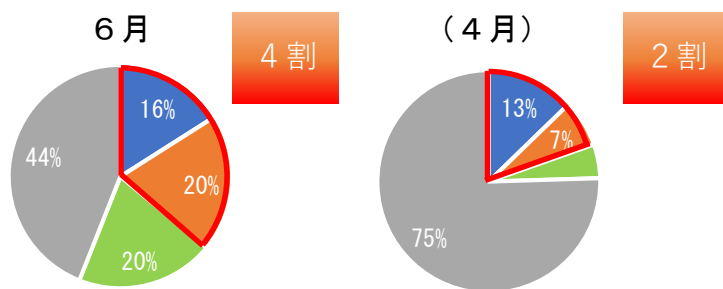
大手のチップ工場を対象に6月の状況について調査（回答数100）を実施（4月の回答数は102）。
 全国の状況としては、

- ・生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約4割**あり（4月比約2割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、2割の事業者が増産していると回答。
- ・**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**（4月から微増）。

九州地区においては、**パルプ用は大きく減産**。燃料用の需要はあるが、在庫増から受入制限もある見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

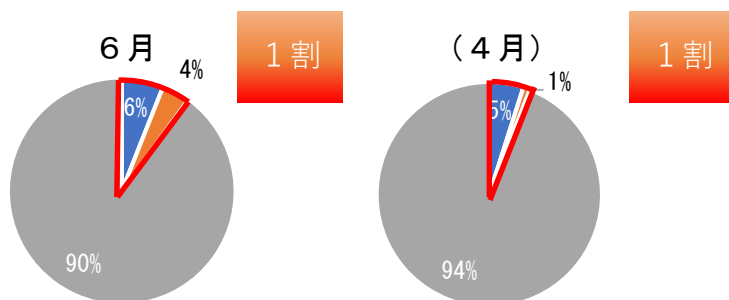
- ・製紙需要の減退により、パルプ用チップは針葉樹、広葉樹とも減産。
- ・燃料用チップの生産・販売は堅調。

【見通し】

- ・製紙は今後も厳しい減産が続く見込み。
- ・燃料用需要は継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・パルプ用原木の受入を制限している工場もある。
- ・燃料用原木は地域によってややひっ迫。
- ・合板用原木の一部がチップ用に利用されることもみられる。

【見通し】

- ・パルプ用原木は今後も受入制限を継続する見込み。
- ・木質バイオマス発電施設の増加により燃料用原木は地域によって、調達が一層厳しくなる可能性。

■ 8月時点の情報【九州地区】

【現状】

- ・パルプ用（特に針葉樹）は大きく減産。製紙工場受入制限も。入荷は順調。
- ・製紙需要の減少に伴い、広葉樹チップ用材の受入制限を実施。

【見通し】

- ・当面減産の状況が続く見込み。
- ・燃料用の需要はあるが、在庫が増えており今後受入制限もあり得る。